

オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会
(第24期・第8回)

議事録

1. 日時 令和元年7月24日(水) 13:00-15:00

2. 会場 日本学術会議5階5-A(1)会議室

出席者(五十音順、敬称略): 安達 淳、喜連川 優、木村 学、澁澤 栄、
林 和弘、引原 隆士、溝端 佐登史、村山 泰啓、渡辺美代子
オブザーバ参加: 山地 一禎(NII)

3. 議題

1. 前回および前々回議事録確認
2. 情報提供 (山地先生)
3. 取りまとめ案についての議論
4. その他

4. 配布資料

- | | |
|-------|--|
| 資料1-1 | 第6回議事録案 |
| 資料1-2 | 第7回議事録案 |
| 資料2 | 提言作成のための情報収集調査報告(山地先生) |
| 資料3 | オープンサイエンスの実装に向けて |
| 資料4 | G7 オープンサイエンスWG ワークショップおよびG7 科学大臣シェルパ
会合概要 |
| 資料5 | オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会 提言例 |

5. 議事

1. (議事録確認) 第6回および第7回の議事録案を承認した。
2. (海外調査報告) 山地先生から、資料2に基づき海外調査の経過報告があった。スイス、ドイツ、オーストラリアの大学における研究データ管理ツールの開発や利用状況について報告された。主な点は以下の通り:
 - スイス連邦工科大学等ではラボノートまで含むサービスを実施している。分野による違いはあろうが、化学などではここまで含むサービスの確立が望まれているようだ。
 - オーストラリアの大学では、学生の日常活動で研究データ管理サービスが機能している。トレーニングコースも開講されている。
 - 情報基盤センターや図書館を巻き込んだ支援基盤を作っている例が見られる。

3. （取りまとめ案） 引原副委員長から資料 3、4、5 に基づき、提言取りまとめに向けた進め方等について提案があった。主な点は以下の通り：
- 行った方がよいヒアリングが少し残されている。
 - 資料 4 に基づく G7 科学大臣シェルパ会合では、主にインフラ整備やデータ基盤整備が議論された。データに関する評価指標も論点になっている。
 - 資料 3 の提言の構成をみなおし、そのなかでいくつかの項目につきサンプルの執筆をお願いすることになった。
4. （その他） 今後の作業方針について意見交換し、次回の開催日時は調整して決定することとなった。

以上